

亀塚古墳(狛江市)

これが亀塚古墳/帆立貝形前方後円墳だが削られてしまい、現在残っているのはその残土を盛ったものらしい



墳頂に徳富蘇峰が揮毫した「泊江亀塚」と記された石碑と、左手に説明板が立っている



5世紀末～6世紀初頭の築造/出土品の金銅製金具に見られる人物や動物の像が、高句麗の古墳石室内の壁画に類似していることから、
狛江地域と渡来人との関係が指摘されているという

亀塚古墳

狛江市北部を中心に分布する狛江古墳群は、南武蔵でも屈指の古墳群として知られています。これらは「狛江百塚」ともよばれ、総数70基あまりの古墳があったとされています。

そのなかでも、亀塚古墳は全長40mと狛江古墳群中屈指の規模を誇り、唯一の帆立貝形前方後円墳で、5世紀末～6世紀初頭に造られたと考えられています。昭和26・28年に発掘調査が行われ、古墳の周囲には、周溝があり、墳丘には円筒埴輪列が廻らされ、前方部には人物や馬をかたどった形象埴輪が置かれていることがわかりました。

人物を埋葬した施設は後円部から2基(木炭槨)、前方部から1基(石棺)が発見され、木炭槨からは銅鏡、金銅製毛彫飾板、馬具、鉄製武器(直刀、鉄鏃など)、鈴釧や玉類などの多数の副葬品が出土しました。特に銅鏡は中国の後漢時代(25～220年)につくられた「神人歌舞画像鏡」で、これと同じ鑄型でつくられたものが大阪府の古墳から2面見つかっていることから、この古墳に埋葬された人物が畿内王権と深く結びついていた豪族であったと考えられています。また、金銅製毛彫飾板には竜、人物、キリンが

描かれており、高句麗との関係が注目されました。

現在は前方部の発掘調査が進んでいますが、多彩な副葬品や古墳の規模・墳形から、多摩川流域の古墳時代中期を代表する古墳群の長塚として位置づけられます。

平成14年3月

狛江市教育委員会



亀塚古墳 (昭和26年)

住宅が迫っている



別の角度から



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_tamak_kameduka/

<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/45,65126,349,2094.html>

<http://gogohiderin.blog.fc2.com/blog-entry-48.html>

<http://blog.goo.ne.jp/rekishi-nazo/e/27752a1c41f6ce237d76a5ded08c7f18>

<http://www.geocities.jp/kenichi291/kametsuka.htm>

<http://jpn-havashi.com/cgi-bin/pidetail.cgi?mode=&title0=%8D%9D%8D%5D%8BT%92%CB%8C%3%95%AD&choice0=k1601190&printer=%83u%83b%83N&phoview=35&index=2851&browser=99&column=24&font=20&screen=240&life=>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2017/02/25/100000>

